

広告



## 秋田を想うプロ人材を、 ビジネスの推進力に。

もしも、秋田に貢献したいという想いと  
さまざまな専門スキルをもつ、プロ人材がいたなら。  
秋田の企業にとって、力強い味方になるはずです。  
ここ秋田で始まる、「スキルリターン」。  
このプロジェクトは、秋田に特別な想いをもつ、  
専門的な経験を積んだプロ人材を、県内の企業とつなぐ取り組みです。  
私たちHiProは、プロ人材活用の支援を通じて、  
秋田の企業に貢献していきたいと考えています。  
たとえば、デジタル化の推進、新規プロジェクトの立ち上げなど、  
事業課題に合ったスキルを、ビジネスの推進力に。  
秋田を想う人材だからこそ、モチベーションはより強く。  
そんな可能性のあるプロ人材の活用を、はじめてみませんか。

## スキルリターン

秋田



秋田県では、プロ人材を受け入れ、経営課題の解決に取り組む県内企業を支援しています。  
首都圏副業・兼業人材の活用は、[秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点\(018-860-5624\)](#)へご相談ください。

副業・フリーランスのプロ人材活用なら  
**HiPro** [ハイプロ]

「スキルリターン」  
秋田県 特設ページはこちら▶



秋田県  
プロフェッショナル  
人材戦略拠点HP  
首都圏の  
副業希望者との  
交流会HP

BIC  
Business Information Center  
AKITA

520  
2024.11



ピックあきた Vol.520 2024年10月31日発行 編集発行／公益財団法人 あきた企業活性化センター TEL.018-860-5610 FAX.018-863-2390 本誌は、賛助会員への配布となっております。購読を希望される場合は、上記までお申し込みください。



facebook  
YouTube  
チャンネル

長い歴史を受け継ぐ、守るではなく  
今必要とされるものを造りたい

経営採訪 [企努力社 黒林酒造店]

# BIC AKITA



- 04 起業家特集  
[ジャム工房のら]  
[株式会社 LibertyGate]
- 06 主催事業報告
- 08 経営サプリメント
- 10 お知らせ

# 経営探訪

合名会社  
栗林酒造店

長い歴史を受け継ぐ、守るではなく  
今必要とされるものを造りたい



合名会社 栗林酒造店  
代表社員 栗林 直章



常に同じお酒を目指すのではなく

時代の流れに合わせて変化する

変化を恐れず

栗林酒

挑戦を続ける日本酒蔵

明治7年(1874年)に旧六郷村(現在の美郷町)で創業された栗林酒造店。仙北平野の良質なお米と豊富な地下水に恵まれたこの場所には、当時20以上の酒蔵があったと云われている。戦時中には企業整備によって仙北酒類製造株式会社六郷南工場となった時期もあったが、昭和30年(1955年)に復活し、現在の形に。7代目である栗林直章さんに蔵の運営方針や、今後の展望についてお話を伺った。

※1

## 名杜氏と呼ばれた亀山杜氏 その姿勢から真髄を学ぶ

秋田県の湧水の名所といえば、美郷町にある「六郷湧水群」。120か所以上ある町の湧水の半数をこの六郷地区が占めており、日本名水百選にも選ばれている。この名水の里で酒造りを行う合名会社栗林酒造店は、今年で創立150周年を迎える。

代表の栗林直章さんは、1995年に蔵に入った。そのころ杜氏を務めていたのが亀山精司さん。今も彼の名前がついた酵母が、蔵付き酵母として使われている。

「長い歴史や受け継いできた技術を守っていくことより、今求められているものを追求することが大切だと思っています。前の杜氏の亀山は30年以上杜氏を務めていました。

〒019-1404  
仙北郡美郷町六郷字米町56  
TEL: 0187-84-2108  
FAX: 0187-84-3570  
<https://harukasumi.com/>



HP



しかし、その間ずっと同じ酒を作っている訳がないんです。  
時代の流れに合わせ、造るお酒も変化しなくてはなりません」。

栗林さんが蔵に入った当時、日本酒は売れない時代だった。  
ほぼ同時期に酒類販売免許の緩和などもあり、販路の再検討や  
ブランディングの見直しなど、課題は山積みだったという。

## 秋田県産の酒米・美郷錦と 亀山酵母を蔵の特長に

「弊社は地元の酒販店がメインの販路でしたが、多くの人は、スーパーや量販店などで購入するようになっていました。販路や商品開発をどうすれば良いのか、非常に悩みました。販路をスーパーや量販店に切り替えるという選択肢もありましたが、特長のあるお酒を造り、セレクトショップのような地酒の専門店で選ぶ楽しみを味わってもらいたいという結論に至り、自社のラインナップ見直しを図りました。並行してお酒の方向性も検討し、美郷錦の純米酒を作ったことで亀山酵母と美郷錦の組合せを主軸にしようと決めました。この2つを使うことでバランスが良く、食事に合うお酒ができることに気が付いたんです」。



酒米の田植え・稲刈りでワークショップを行い、  
酒を通して地域とのつながりを作る。



酒造りの現場に携わるスタッフの多くが40代。  
若いスタッフでも良い酒は造れることを実証している。

※1 撮影:高橋希 ※2 撮影:巣田亮、提供:北のくらし研究所

①酒全体にまとまりがあり、バランスが良く食中酒として飲まれている「春霞」。

②酒蔵の雰囲気でお酒の印象も変わると語る栗林さん。  
古いものにこだわらない姿勢が蔵の空気にも流れている。



秋田県産美郷錦と亀山酵母を使った、全量純米酒という主軸にたどり着いた栗林さん。この美郷錦の純米酒が現在のベーシックなラインである「春霞」緑ラベルだ。現在は春霞のほか、栗林、季節限定商品の3つのラインで展開し、4割は県内、6割は県外の酒販店に流通している。

## 個人の力ではなく、チームの力 組織づくりと人材育成に尽力

今後は、現在着手している組織づくりに力を入れていきたいと話す栗林さん。

「今は40代の蔵人が多く、女性も働いています。正社員10名と季節雇用1名で酒造りを行っています。かつては10月から3月までが酒造りの期間でしたが、設備投資を行い現在は9月から5月までの期間で日本酒の仕込みができる環境になりました。酒蔵の稼働期間を延ばしたことでスケジュールに余裕ができる。そうすると、交代制で休むことができるんです。今は、蔵に入って2~3年目という若いスタッフも交えて、いい酒を仕込んでいます。職人でなければならないという考え方ではなく、チームで造る。その組織づくり、人材育成に今後も取り組んでいきたいと思います」。



美郷町の澄んだ水を使う酒米の洗米。

## 地元の道の駅での販売を機に、さまざまな加工品製造を開始 夫婦2人で新たなスタート



代表 斎藤 亮

ジャム工房のら  
〒012-1103  
雄勝郡羽後町林崎字桺の前51-2  
TEL:090-2367-7238  
<https://jamfactorynora.stores.jp/>



HP

### 道の駅での出品が設立のきっかけに

羽後町で小さな加工所を営む斎藤さん夫妻。ご主人の亮さんは運送の仕事に就いていたが、兼業農家だった父が急逝したことでの家業を継いだ。農業が未経験だった亮さんは、地元の大きな農家で13年ほど働いてから、ブルーベリーや切り花、お米の農家として独立した。ベリー類を栽培し始めたのは、3人の子どもたちが好きだったからだ。

2016年に道の駅うごがオープン。自分たちで育てた野菜や果実のほか、加工品のジャムなどを出品するようになった。夫婦で農業の傍ら、のんびりと加工品を作り販売するような生活ができたとを考えていた中、2021年に転機が訪れる。食品衛生法が改正され、産直で販売する製品についても基準をクリアした加工所を持たなくてはならなくなった。そこでジャム製品などを作るため基準をクリアした加工所を設立、製造に関する免許を取得し、2022年3月「ジャム工房のら」の開業に至った。羽後町にある店舗では、瓶詰の製造のみならず、販売も行っている。



レシピ考案は亮さん、製造は朋美さんが担当。



のどかな景色が広がる羽後町で作る、夫婦二人の手作りの品は、県内各地に広がっている。



他の事業者との繋がりや、一般の方とコミュニケーションを取るために「起業家スタートアップ交流ラボ2024」にも出展。

## 大学在学中に挑戦を決意 「身近な課題に挑戦したい」と高齢者に関わる事業を設立



代表取締役 菅原 魁人

株式会社 LibertyGate  
〒010-1437  
秋田市仁井田緑町2-21  
TEL:018-853-4639  
<https://libertygate.jp>



HP

### 事業を全国にフランチャイズで展開する

菅原さんが作った事業「アシスタ」に来る依頼の内容は「スマート操作を教えて欲しい」「買い物を手伝って欲しい」「病院の付き添いをお願いしたい」「話し相手になってほしい」といったものだ。多くは学生アルバイトを派遣することで対応しており、現在登録している学生は秋田市で200名ほど。働き手の9割程度が大学生だ。事業を開始する際、居宅介護支援事業者などに説明することで認知が広がり、役所やケアマネージャーなどからの依頼が多いという。

秋田県内では自社直営の「秋田市」のほか、フランチャイズとして「大仙市・仙北市・美郷町」、「横手市・湯沢市」の3つのエリアでサービスを提供している。また、全国にこのスキームを広げるため、フランチャイズ先を獲得するための動きに力を入れており、すでに北海道を除く全国各地に事業が広がりを見せている。「今取り組んでいるのは課題の入口。今後は複雑な課題にも一気通貫で解決できるようにしていきたい」と語る菅原さん。若い力と情熱で、事業拡大を推し進める。



秋田発スタートアップの成長ロールモデル創出を目指す「令和6年度AKISTA認定スタートアップ」に認定されている。



介護保険内では育てない幅広い依頼に柔軟に対応。



WEB広告も導入し、全国からオーナーを集め、店舗を設置。



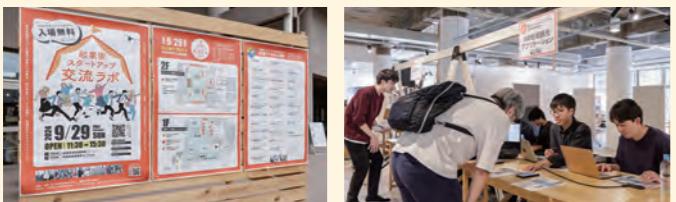
# 起業家・スタートアップ交流ラボ2024

9月29日、秋田市文化創造館にて「起業家・スタートアップ交流ラボ2024」が開催された。開会にあたり、当センター理事長妹尾明より「前身である『起業家交流フェスタ』から数え、今年で9回目となります。昨年からスタートアップへの挑戦ということをコンセプトテーマに掲げ、スケールアップしました。今年は初めての日曜日開催ということもあり、近隣イベントとの相乗効果による、より一層の交流と賑わいを目指しています。この機会を積極的に活用していただき、

ビジネスの発展の契機となれば幸いです」と挨拶があった。開会式終了後、活躍中の先輩起業家を表彰する「秋田県先輩起業家表彰式」、ゲスト起業家による「起業家トークセッション」が行われたほか、会場では新規起業家や、現在起業準備中の方々による展示販売ブース、秋田イノベーションプログラムの出展ブースや、屋外ではキッチンカー＆グルメ提供ブースが設けられるなど、多くの来場者で賑わいを見せていた。

## 1 さまざまな事業者が参加した 出展ブース

「秋田市文化創造館」2階では起業家および起業準備を行う方々による展示販売、1階には秋田イノベーションプログラム「ASHIOTO」に参画する若者たちによるブースや、参加型ワークショップを行うブース、屋外ではキッチンカーなども参加し、総勢31のブースが会場を盛り上げた。



## 参加者の声

### 3Dプリント商品・stemキットなど

**Pragmodel**  
**長谷山 直飛さん(由利本荘市)**

秋田県立大学3年の長谷山直飛さんが代表を務める「Pragmodel」。大学で学んだことを活かし、3Dプリンタでの商品の製造や販売事業、プログラミングや電子工作といった技術系分野の教育「stem教育」に関する事業を行っている。農家に生まれ、農業や農業機械などへの興味と、経営への興味を持っていた長谷山さん。「大学でインプットしたことを、事業という形でアウトプットしてみたい。幅広く、自分が生み出せるサービスを提供していくたいと思います。」



### 着物レンタル・着付け(レッスン・買取)

**笹パンダ堂**  
**仲澤 有香さん(秋田市)**

旅行で鎌倉を訪れた際、着物姿で街歩きができるサービスがあることを知り、秋田でサービス提供をしたいと考えていた仲澤さん。観光客以外にも着物を着る楽しみを提供したいと考えている。

「祖母が和裁をしていたので着物は身近なものでした。普段から気軽に着物を着て出かけられるお手伝いをしたいと起業に至りました。現在は出張着付けが基本ですが、着付けレッスンや買取も行っています。今後は実店舗を設けてサービス提供を目指していきたいですね。」

E-mail: sasapandado@gmail.com URL: <https://sasapandado.com/>

TEL.080-7687-3977 E-mail: naotohaseyama810@gmail.com



## 2 秋田県のスタートアップ創出 「起業家トークセッション」

トークセッションのテーマは「ソーシャルグッドな秋田のゲスト起業家」。ファイオン株式会社の代表取締役であるマティログ氏がファシリテーターを務め、ゲスト起業家として株式会社TOMUSHIの代表取締役CEOである石田陽佑氏、株式会社エーの代表取締役である阿部円香氏が登壇。それぞれの事業についてのピッチを行った上で、いくつかのテーマについてトークセッションを行った。

「地球にやさしい未来」というビジョンを掲げる(株)TOMUSHIの石田さんは、有機廃棄物に価値を生み、新たな資源へと循環させる事業を行っており、(株)エーの阿部さんは、横手市十文字町で宿泊、お酒、醸造といったキーワードに関連した3つの場を生み出している。それらの起業に至る経緯やターニングポイントで感じたこと、大切にしていることについて忌憚のないトークが展開され、会場では熱心に耳を傾ける来場者の姿が見受けられた。



先輩起業家に学ぶ！

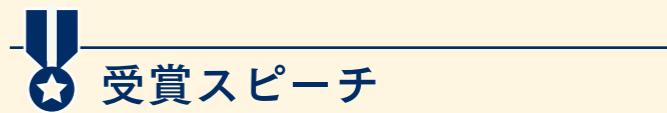
## 先輩起業家表彰

2 1 3



妹尾理事長 株式会社ツバサ 斎藤 真氏 石川産業労働部長

同日、秋田県による「先輩起業家表彰」も実施された。この表彰は、地域の雇用や経済に大きく貢献している起業家を表彰するもので、ロールモデルとして広く発信するとともに、若年層の起業家意識の醸成を図ることを目的としている。今年度は株式会社ツバサの代表取締役斎藤真氏が表彰を受けた。秋田県の石川定人産業労働部長は「地方の可能性をカタチにするというキーワードのもと、今年で12年を迎えている企業であり、多様な地域資源を活用した商品開発を行い、地域商社として県産品の魅力を広く発信している。地域経済の活性化を目指した事業に取り組まれ、創業時から安定した成長を続けています」とし、今後も企業支援に加え、スタートアップの創出や成長をサポートする取り組みにも着手したいと語った。



## 受賞スピーチ

株式会社 ツバサ  
代表取締役 斎藤 真 氏



本日はこのような賞をいただき、身に余る思いです。弊社は2013年に創業し、今期で12期目を迎えています。事業は2つあり、ひとつはクリエイティブ事業、もう一つは商品開発事業で、合わせて20名在籍しています。また、グループ会社としてECを専門にしたノースコマース株式会社、4月から道の駅てんのうを運営している「株式会社かたがみクラブ」も含め、総勢70名とともに秋田で地域ビジネスに取り組んでいます。

起業というのは思い切らないとできないことです。雇われるという身を断ち、自分が志す事業で世の中に商品やサービスを提供していく。強い思い、志、なけなしの資金。そして時には金融機関から融資を受けて勝負していかなくてはなりません。立ち上げることも、維持していくことも大変です。秋田には課題が多い。だからこそビジネスは生まれます。みんなが頑張ればいい方向に行けると思います。みんなで頑張っていきましょう！

テーマ

## 海外ビジネスの第一歩は公的サービスの利用から

### 01 ジェトロを活用しよう

ジェトロは、70カ所を超える海外事務所ならびに約50の国内拠点から成る国内外ネットワークを活用し、農林水産物・食品の輸出や中堅・中小企業等の海外展開支援に取り組む独立行政法人です。ジェトロ秋田貿易情報センターは1994年10月に開所しており、おかげさまで設立30周年を迎えました。ジェトロの国内事務所は、ジェトロが自ら設置するのではなく、地域からの誘致があって設立に至ります。秋田では県および全市町村から分担金を拠出いただき運営しております。



#### ジェトロ秋田貿易情報センター

秋田市山王2丁目1-40 TEL:018-865-8062  
URL:<https://www.jetro.go.jp/jetro/japan/akita/>



HP

### 02 個別企業支援を中心に秋田県内企業を支援

ジェトロ秋田では県内企業が海外展開するためのさまざまな事業を行っており、その大部分が無料で利用できます。事務所の活動の中心となっているのが個別企業への伴走型支援事業です。経済産業省予算の「新輸出大国コンソーシアム」や農林水産省予算の「輸出プロモーター」、さらには高度外国人材の採用から定着までを支援する「外国人材活躍支援パッケージ」などの事業があり、審査を経て採択された企業の海外ビジネスを戦略策定の段階から契約に至るまで一貫して支援しています。

現在、伴走型支援事業を活用している県内企業は18社で、各社に担当専門家を1人あてています。例えば、「新輸出大国コンソーシアム」では二百数十人の専門家が在籍しており、それぞれの専門分野や得意地域を生かし、販路開拓や拠点設置に向けて、計画立案や規制への対応、商談準備などのお手伝いをしています。時には、海外出張にも

専門家が同行し商談に同席することもあります。専門家の海外出張費も基本的にジェトロが負担し、企業に負担を求めることがありません。

これら個別企業支援での2023年度の輸出成約額は、県内企業12社で計7億1,182万円となりました。伝統工芸品や日本酒、稲庭うどん、花火、機械など様々な商品が欧州やアジアなど世界中に輸出されています。

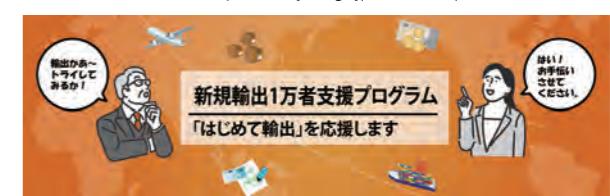


### 03 商品を海外へ輸出するには

新たに自社の商品を海外輸出に取り組む際に、「海外の取引相手を探したい」「公的なサービスをうまく活用したい」「具体的に何からはじめればよいのか?」などの疑問が湧くと思います。そのような場合、まずは「新規輸出1万者支援プログラム」への登録をお勧めします。「新規輸出1万者支援プログラム」のポータルサイトに登録いただくと、ジェトロから連絡が入り、無料で個別のカウンセリングを行い、さまざまな支援策を提案いたします。また、輸出にかかわらず、

海外ビジネスに関するお悩みがありましたら気軽にジェトロ秋田に相談してください。

新規輸出1万者支援プログラム  
<https://www.jetro.go.jp/ichiman-export.html>



### 04 ビジネスの中に「海外」を取り入れよう

近年は国内市場の縮小を受け「国内で売り上げが下がっているから海外へ」というご相談も少なくありません。しかしながら、海外市場も国内同様に競争が激しくなっています。そして、海外市場から求められる商品でなければビジネスにはなりません。

海外ビジネスに取り組むには手間もお金もかかります。ですので、どれくらいの手間と予算を掛けてどのくらいの成果を目指すのか、という点はある程度見据えたうえで取り組むことが肝要です。コロナ禍を経てオンライン商談が普及するなど、コストがかからない海外ビジネスのやり方も増え

ました。海外ビジネス向けの補助金も活用しない手はありません。ジェトロ秋田では、海外ビジネスと一緒に考えるところからはじめますので、遠慮なく相談してください。

国内ビジネスに海外ビジネスをうまく活用するという考え方もできます。海外ビジネスに取り組むことで、商品改良やPR素材の作成、メディアへの露出などが国内ビジネスにもプラスに働くケースもあります。海外ビジネスを単独で考えるのではなく、ビジネスの中に「海外」を取り入れるといった発想で取り組んでいただきたいと思います。



#### 執筆者

独立行政法人  
日本貿易振興機構(ジェトロ)  
秋田貿易情報センター 所長

佐藤 秀二  
Sato Shuji

仙台市出身。大学在学中に台湾留学、在外公館派遣員(台北)を経て1995年にジェトロ職員となり、主に中国関係の業務に携わる。台湾駐在時に台湾大地震に遭遇し、日本政府が派遣した国際緊急援助隊医療チームの案内役となり被災地での救援活動を経験。2008~2013年にジェトロ秋田貿易情報センター所長。2013~2018年にジェトロ青島(中国)事務所長として進出日系企業の撤退を含む事業再編を支援。2020年より再び現職に就く。

## 令和6年度ライフサイエンス人材育成事業セミナー

医療・福祉・ヘルスケア機器等

## 参入チャレンジと開発のキーポイント

医療機器関連の専門講師をお招きし、事例を交えながら参入・開発のノウハウをわかりやすく紹介します。医療・福祉・ヘルスケアに関わる方はもちろん、さまざまな分野の皆様のご参加をお待ちしております。

令和6年12月3日火 13:30-15:50

【会場】秋田県総合食品研究センター 1階 研修室1

(秋田市新屋町字砂呑寄4-26) ※駐車場無料、会場内に自動販売機はありませんので飲み物はご持参ください

参加  
無料

## 基調講演1 13:35-14:20 「こんなものがほしかった!」と言ってもらえる開発を目指して

東北大学ナレッジキャスト株式会社

医療機器等開発支援グループ コンサルタント

とくえ あやこ

徳江 彩子 氏



医療機器メーカーに6年在職し、主に循環器領域の研究開発に従事。その後、東北大学病院臨床研究推進センターに8年在職し、医療機器を中心に独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)での相談対応や医師主導治験のプロジェクトマネジメントを担当。本セミナーでは、医療・健康分野における開発のポイントを事例を交えながら紹介します。

## 基調講演2 14:20-15:00 “医療機器産業”参入前に知っておきたい、いくつかのこと

東北大学ナレッジキャスト株式会社

医療機器等開発支援グループ シニアコンサルタント

すずき ともひと  
鈴木 友人 氏

PMDAに12年在職し、主に心臓血管系の医療機器を中心に承認審査及び相談業務に従事。PMDA在職中に東京大学医学部附属病院及び日本医療研究開発機構(AMED)に出向し、医療機器等の研究開発支援や予算事業の管理運営を担当。本セミナーでは、これまでの経験を踏まえて、よくある落とし穴やおさえておく必要があるポイントなどを紹介します。

## 県内事例紹介 15:10-15:40

活性化センターではライフサイエンス分野に関する展示会出展支援事業(補助金)を実施しています。本事業を活用した県内企業の取組みについて紹介します。

## 事例1 協和精工株式会社

常務取締役 渡辺 誠 氏



## 事例2 小林工業株式会社

取締役営業部長 柳田 吏 氏



## 申込方法

申込フォームまたはFAXでお申し込みください

専用ページ  
(FAX用紙もこちら)

## 募集締め切り

令和6年11月22日金

## お問合せ

あきた企業活性化センター 研究推進課  
Tel:018-860-5702 E-mail:setsubi-ken@bic-akita.or.jp

主催/公益財団法人あきた企業活性化センター 後援/秋田県

**KONISHI TYRE**

人と企業を足もとから支える

2024 10/11よりスタッドレスフェア開催

本社・予約取付工場  
コニシタイヤDEPO   
〒011-0945 秋田市土崎港西3丁目8-45  
TEL:018-853-8313 Fax:018-857-0670

SHOP・ショールーム  
〒011-0945 秋田市土崎港西2丁目12-67  
TEL:018-847-4550 Fax:018-857-0670

## 副業・兼業人材活用セミナー&amp;個別相談会

参加費  
無料

このような課題をお持ちの経営者の方、ぜひご参加ください!

- 会社を変えたい  離職者が続いている
- 求人に応募がない  DX導入を考えている
- 商品開発が進まない  海外戦略を実施したい

お申込・  
お問合せ 秋田県プロフェッショナル  
人材戦略拠点 〒010-8572 秋田市山王三丁目1-1 公益財団法人あきた企業活性化センター内  
TEL:018-860-5624 FAX:018-860-5612 E-mail:projinzaib@bic-akita.or.jp詳細の確認・ご相談はこちら▶  
<https://www.akita-projin.com/>対象者 副業・兼業人材活用に関心がある  
県内中小企業経営者等

日程 令和6年12月18日(水) 13:30~15:30

会場 あきた芸術劇場ミルバス 小ホールA

アキタコアベース  
AKITA COA BASE



アキタコアベースでは、  
秋田への移住、秋田県内企業への就職に関する  
ワンストップでの相談対応や  
秋田とつながる交流イベントを実施しております。  
皆様お気軽にお立ち寄りください。  
電話やメール、オンラインでの相談、  
お問い合わせも承っております。

## アキタコアベース

(秋田県あきた暮らし・交流拠点センター)

所在地 東京都中央区京橋二丁目6番13号  
京橋ヨツギビル1階

開館時間 10:00~18:00

休館日 毎週火曜日、5/3~5、8/13~15、12/29~1/3ほか

TEL <フリーダイヤル>0120-122-255  
070-1359-9624

E-mail coabase@a-iжу.jp

アクセス JR東京駅 徒歩7分  
東京メトロ銀座線 京橋駅 徒歩2分  
都営地下鉄浅草線 宝町駅 徒歩2分

東京ど真ん中!

